

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（地区統括部長）	・今年の年末にエコポイント制度が終了する予定であるため、相当な駆け込み需要が見込まれる。
	やや良くなる	観光型ホテル（経営者）	・ビジネス客が戻ってきており、宴会場の需要も増加している。当リゾートも会議等の団体利用への問い合わせが増えていることから、今後についてはやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・円高が続くことで、海外旅行の好調が見込まれる。ただし、団体系の旅行は依然として弱含みで推移する。
		タクシー運転手	・暑い日が続いている影響もあるのかもしれないが、近い距離でも客が乗るようになってきている。前年と比較しても約3%売上が伸びていることから、2～3か月後の景気についてはやや良くなる。
		観光名所（職員）	・若干ではあるが、中国人客が増加傾向にあるほか、香港・台湾・シンガポール人の客も増加していることから、今後についてはやや良くなる。一方、国内旅行者については減少しているため、客を増加させるにはイベント等の企画が必要となる。
		パチンコ店（役員）	・業界特有のことかもしれないが、3か月先は年間で最も来客数が減少する時期であるため、大きく良くなることはないが、今月のような来客状況が継続すれば、予想より下回ることもない。
変わらない	商店街（代表者）	・客に元気がなく、将来不安に関する話や否定的な話が多いことから、今後も変わらないまま推移する。	
	商店街（代表者）	・気候次第の面はあるが、今年の冬のトレンドとされているファー物の価格高騰もあり、客が早めに冬物に手を出さないことが見込まれる。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから、売上は一進一退の状況がずっと続いているため、2～3か月で基調が変わっていくことはあまり期待できない。	
	スーパー（店長）	・このまま9月も残暑が続くと、野菜が不作となり、価格の高騰を招くため、漬物商材の不振につながる。また、秋冬物衣料にも影響が出てくることも懸念される。	
	スーパー（店長）	・来客数は徐々に伸びてきているが、やはりまだ動きに不安な面もあるため、販売量が大きく上回る予想はしづらい。	
	スーパー（役員）	・暑さにより、飲料・デリカ・塩干物・冷凍食品等の動きは良いが、生魚・肉・米など、煮炊きする素材の動きが悪い。また、残暑が長引く異常な気象により、農作物の作況や水産物の水揚げにもばらつきが出ている。各商品のバランスが崩れていることから、今後については、全体では決して良くはならない。	
	スーパー（役員）	・異常とも言える残暑の影響で農作物・水産物にも影響が出てきている。豊作の物は単価が低下し、不作の物は価格が高くなることで売れない状況となる。	
	衣料品専門店（店長）	・2～3か月後は寒くなり、燃料費等に出費がかさむため、今後については良くならない。	
	家電量販店（店員）	・9～10月についても、引き続きエコポイント制度の効果で薄型テレビの販売が期待できる。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・自動車燃料の販売量は減少傾向が続いていることから、今後も変わらないまま推移する。	
	高級レストラン（スタッフ）	・各地で行われる食の催事の様子をみると、前年より人の動きが活発化しているため、今後についてはこれ以上悪くならないと感じる。	
	高級レストラン（スタッフ）	・お祭りなどの催事がある時の来客数は増加するが、何も無い平日の動きが極端に少ないため、今後も変わらないまま推移する。	
	旅行代理店（従業員）	・来客数はまずまずの水準にあるが、低価格志向は相変わらずである。また、商品のラインナップも低価格商品中心に向かっていているため、利用客が増加しない限り、今後の回復は見込めない。	
	旅行代理店（従業員）	・先行の販売状況があまり変わっていないため、今後も変わらない。	
	タクシー運転手	・注文数や来客数の増える要素が思い当たらない。	
	通信会社（社員）	・年末までの間に特に大きなイベントもないため、景気浮揚策が打ち出されない限り、今後には期待はできない。	

	通信会社（企画担当）	・少なくとも冬商戦までは、夏商戦の主力商品やサービスの好調な販売状況が続く。
	観光名所（役員）	・来客数増加の主要因であった海外客もチャーター便の動向から、秋以降の力強さが感じられない。個人客についても高速道路料金引下げの効果が前年ほど期待できないため、先行きに明るさが感じられない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・今月の伸びは天候による一過性のものであり、景気そのものは依然として不透明感がぬぐえないことから、先行きについて不安がある。
	商店街（代表者）	・今月は売上の増加がみられたが、前年と比べて景気が良くなっているとは思えないため、今後も変わらないまま推移する。
	商店街（代表者）	・3か月後は賞与月の前月であり、ここ1～2年の当該月の客の外出控え及び買い控えが顕著であることを考慮すると、今年も来街者数の減少が見込まれるため、今後の売上増加は望めない。
	百貨店（売場主任）	・現在も残暑が続いており、秋物の立ち上がりも前年の8掛けという状況である。このため、9～10月も残暑、暖冬の傾向が続くことになれば、秋物商戦の動きが非常に鈍ることになる。特に主力のジャケット・コートに関しては、今後の天候状況が懸念される。
	百貨店（売場主任）	・来客数も減ってきているが、今月は客単価が前年比93.2%と前年を下回っている。堅調だった食品も前年比92%となっており、好調なカテゴリーが見当たらないことから、今後についてはやや悪くなる。
	百貨店（販売促進担当）	・円高や株価下落の影響が出てくる。また、猛暑の影響で秋物衣料の動きが鈍く、秋物と冬物の需要期の間隔が狭くなることで、秋物衣料の販売機会が減ってしまうことが懸念される。
	スーパー（企画担当）	・政局の不安定さ、経済対策の遅れ、株式市場や為替相場の乱調など、消費者の財布のひもが緩む要因は全くといっていいほど見当たらないため、今後についてはやや悪くなる。
	コンビニ（エリア担当）	・10月からのたばこ増税にともなう価格改定で、たばこの消費量が大幅に減少することになり、客の来店頻度が減少する。それに付随して、たばこ以外の商品の販売量も減少することになり、売上の苦戦が見込まれる。
	乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入時の補助金も終わり、客もかなり前倒しで購入していることから、後は厳しい時期を迎える。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・業界の低迷はどん底であり、顧客の取り込み、奪い合いが更に深刻になる。
		旅行代理店（従業員）
	タクシー運転手	・当市では、ハイヤー協会加盟のほとんどの会社が10%の減車を実行中であり、当社も8月までに7%の減車を実施している。減車の効果なのか、今月の1台当たりの売上は前年並みとなり、他社もほぼ前年並みであったと聞いているが、経営的には、減車した分、売上が減少しており、他の経費を削減しないと苦しい状況にある。そのため、今後についてはやや悪くなる。
	美容室（経営者）	・政局への不安感が増大しているため、今まで以上に支出を抑える傾向が強まる。
	美容室（経営者）	・基幹産業の米作は悪くないようだが、客の様子からも、来客数の推移からも、それ以外の好材料がうかがえないため、今後についてはやや悪くなる。
	設計事務所（所長）	・良くなっていく兆しが見えていたが、今は失速しているため、今後についてはやや悪くなる。
	住宅販売会社（従業員）	・最近、経済関係のニュースは悲観的なものが多くなっていることから、消費者のマインドがかなり低下してきている。特に住宅を購入しようと考えている人は経済ニュースには敏感に反応するので、これから少しずつ悪影響が出てくるのが懸念される。
悪くなる	スーパー（店長）	・長期予報では残暑が続くとのことから、秋冬物衣料品の売上低迷が続く。また、野菜の相場高、農作物への被害が生じることになれば、客である農家の収入減が見込まれ、厳しい状態となる。

		乗用車販売店（営業担当） 観光型ホテル（経営者）	・国の政策などによって、一時的に需要が伸長したが、今後はデフレ傾向が強まり、価格競争が激化する。 ・急激な円高により、国内客の減少をカバーしていた海外客の減少が懸念される。また、国内景気が本格的に回復していないため、国内客の集客状況も良くない。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	- 金属製品製造業（役員） その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	- ・微増ではあるが、住宅着工率が上昇してきているため、今後についてはやや良くなる。 ・長期展望が見えず、設備を含めた高額商品の売行きは良くないが、消耗資材を中心に販売量は着実に回復してきている。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・沿岸海水温の上昇により、水産漁獲物が減少していることから、加工原料の確保不安と価格高騰で採算が悪化している。こうした状況は今後も続く。
		食料品製造業（役員）	・例年、秋に向けて上向く傾向となるが、今年は、引き続きの暑さが予想されていることに加えて、新規の大型案件も見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
		家具製造業（経営者）	・すでに進行している案件が多くあり、今後数か月はやや好調な状態が続く。しかし、最近の急激な円高、株安の悪影響が顕在化するため、全体としては変わらないまま推移する。
		建設業（経営者）	・公共工事については絶対量が大幅に削減されているため、発注が進んでも繁忙感がない。民間工事についても引き合いが少なく、厳しい価格競争のもと、各社が疲弊気味である。以上のことから、今後についても変わらないまま推移する。
		輸送業（営業担当）	・8月発表の農作物の生育状況は非常に順調に推移しているが、今夏は北海道も猛暑のため、今後は生産品にマイナスの影響が出ることが懸念される。
		金融業（企画担当）	・不振が続いた住宅業界はマンションの在庫調整が進み、住宅着工戸数の増加が見込まれるものの、公共工事の大幅減少で土木建設業界が一層厳しくなっていることから、今後の倒産件数の増加が懸念される。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・農業が堅調であるものの、それ以外の業種は苦戦が続いており、全体としては変わらないまま推移する。	
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・業界自体が冷え込んでおり、先行きへの不透明な感が否めない。	
	金属製品製造業（経営者）	・身の回りの状況や、民主党政権の問題を見る限り、今後の景気が良くなるとは思えない。	
	建設業（従業員）	・政権が不安定であることから、今後の公共工事の追加発注は期待できない。厳寒期に向かうこともあり、建設関連の景気回復は全く見込めない。	
	輸送業（支店長）	・最近の円高、株安により、企業心理が非常に冷えてきている。そのため、物流面においても今後の取引量が減ることが懸念される。	
	通信業（営業担当）	・円高に対する政府と日銀の姿勢がこのまま継続することになれば、失望感とともに輸出企業を中心に実態業績の悪化が生じることになり、それをきっかけに景況感を更にもう一段押し下げることになる。	
悪くなる	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・公共工事の発注額がこれまで以上に減少すると見込まれる。また、民間工事も伸びが見込まれないことから、今後については悪くなる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・本来の形の派遣スタッフの募集や業務請負の募集が徐々に増えてきている。また、業種にかかわらず、全体的に新規や久しぶりの求人が目立ってきていることから、求人意欲の力強さが感じられる。
		職業安定所（職員）	・新規求職申込件数は2.5%減少し、3か月ぶりに前年を下回ったほか、月間有効求職者数は3.4%減少し、3か月連続で前年を下回ったことから、今後についてはやや良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・雇用環境において、新卒の先行き不透明感は強くなるばかりであるが、卒業後3年間までを新卒扱いするなどの方策が検討されている。一方、企業との対応においては、次年度の採用計画を今年度並みと見据える事例が多いが、業界によっては求人状況に回復傾向がみられるとの情報もあり、2012年卒業生を対象とする動きが少しは活発に展開されることが期待できる。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・交代の補充がある程度で、増員の動きがまだみられないことから、今後も変わらないまま推移する。	

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人情数は前年末から前年比プラスで推移しているが、国の施策の効果で底打ちから緩やかに上昇しているもので、今後大きく上昇する要素が見当たらない。
	新聞社 [ 求人広告 ] (担当者)	・今年に入ってから求人が前年を下回ったのは1月と4月だけであり、それ以外の6か月は前年を上回っている。売上も前々年並みにまで回復していることから、求人は一過性の特需ではなく、継続した回復基調にあり、今後も変わらないまま推移する。
	職業安定所 (職員)	・景気の低迷から景気全体を引っ張る製造業の求人が伸びてこない。全体の求人では4月以降、前年比が微増しているが、製造業の求人は4月以降、4か月連続で前年を下回っていることから、今後も変わらないまま推移する。
やや悪くなる	人材派遣会社 (社員)	・雇用環境をみると、流通業界の夏商戦も一段落したことから、人材の需要は低位安定で推移する。パート・アルバイトについても冬商戦までは需要の盛り上がり欠ける。いわゆる産業界の閑散期に入り、活力に欠ける展開となりそうで、景気動向は政府の対策に大きく左右されることになる。
	職業安定所 (職員)	・追加経済対策による効果の息切れに加えて、円高などの影響が徐々に表れることになり、今後についてはやや悪くなる。
悪くなる	-	-